



第16号

発行 旭区高殿5-6-41 大阪府立旭高校同窓会 発行人 西中紀博 編集 旭窓会報編集委員会 印刷 サンライト (36) 3505 (34) 1832 0723

ご挨拶

同窓会長



西中紀博

会員の皆さん、お元気で御活躍の事と存じます。平素は、同窓会発展の為に協力下さいまして誠にありがとうございます。今年も例年どおり、母校で開催することとなりました。当日は、在学当時お世話になった恩師の方々、共に学んだクラスメートや先輩後輩諸氏と親しく膝を交えて歓談出来ますことが本当に楽しみです。どうぞ秋爛漫の一日を久し振りに母校でゆっくりお過ごしいただきますようお願い申し上げます。

さて、本同窓会は、昭和三十年に発会しまして、来る六十四年度丁度三十五周年を迎えます。つきましてはこれを機に、何か記念に

なる内容の行事を持つてどうかと、先般開きました役員会で話し合いました。具体的には、これらことをするかにについては、これから会員の方々からも良いアイデアも出していただき、参考にして計画いたしました。思いますので、どうぞよろしく願います。当節のことですので余り経費をかせず、実のあることをと私は考えております。

それでは皆様、総会の日には我等が母校、旭の学び舎でお会い出来ますことを楽しみにいたしております。

10月25日(日)昼1時 母校に みんな！集まれー！ 総会・懇親会のご案内

ご案内

母校は今年四月、創立35周年を迎えました。同窓生の皆様はそれぞれご立派にご活躍の事とお慶び申し上げます。

さて、本年は前回の総会から一年目を迎え、総会を開催する年になりました。

今回も前回同様、なつかしい母校に恩師を多数お迎えして集いたいと思います。

さわやかな秋晴れ、菊花薫る好季節、皆様のなつかしい笑顔にお会いできる事を願ってここにご案内申し上げます。ぜひ、お誘い合わせの上ご出席下さい。

記

日時 昭和六十二年十月二十五日(日)午後一時～四時 場所 母校会議室及び旭窓会館 (地下鉄・谷町線関目駅下車スグ)

○総会次第一時～二時

- 一、開会の辞
二、会長あいさつ
三、学校長あいさつ
四、議事
イ、行事報告
ロ、会計報告
ハ、会計監査報告
ニ、その他
五、閉会の辞

○懇親会 二時～四時 費用 四、〇〇〇円(但し三十

(当日徴収いたします。)

会場準備の都合上出欠を同封のハガキで(切手を貼付下さい)九月末日までにカナラズ御返事下さい。尚、マイカーでの御来校は御遠慮下さい。

理事・役員会のお知らせ

同窓会の運営に関する種々の案件を理事・役員の方々と膝を交えて話し合いたいと思っております。是非ご参加下さい。

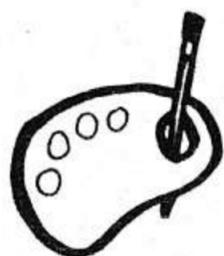
記

日時 十月九日(金) 午後六時三十分 場所 母校応接室

○出欠の返事は、返信ハガキの表面に「役員会出席」または「役員会欠席」と朱書でお願い致します。

文化祭・体育大会

旭高校文化祭は九月十九日(土)二十日(日)に、体育大会は九月二十九日(火)に開催されます。後輩達の活躍ぶりを見に、多数ご来校下さい。



# ご挨拶

## 旭高校の明日に向かって



校長 田中 精之助

本年四月、三十六期生が入学してきました。

本校創立後、鉢植えで育ててきたカナリヤシを昭和三十六年頃に本館の正面玄関前に植えかえたと聞いていますが、現在では、太い幹がしっかりと大地に根をおろし、枝葉は四方に大きく広がっております。

まさに、旭高校の歴史の年輪を刻んでいるような感じがいたします。本校は先輩諸兄姉や教職員の方々のご尽力によって築きあげられてきました輝かしい伝統と、すばらしい実績のゆるぎない基盤の上になつて、いま新しい飛躍が望まれる時期にあると思ひます。

それだけに、私自身に課せられた責務の重大さを痛感いたしております。

それにつけても、昨年四月に、前校長松川義明先生のすぐれた学

校経営の後をうけて就任して以来、西中紀博同窓会長さんをはじめ、役員ならびに会員の皆さまから深いご理解と温かいお力添えをいただいておりますことを深く感謝しあげ次第です。

さて、話はかわりますが、昭和六十二年三月の国公立大学入試は、ご存知のとおり、入試制度の改革第一年度でありました。

受験機会の複数化により、試験日がA日程、B日程等々に分かれたこと、二次試験の出願が共通一次前に変わったこと、あるいは、二段階選抜の実施など、いずれも初めて経験する制度のもとに、受験生にとつても、進路指導をする教師にとつても、とまどいや、不安もある大変な年でありました。それだけに、教職員も生徒もそれぞれの立場で受験準備と対応によく努力をしてまいりました。おかげで、大学合格者数は、国公立とともに予想より好結果をあげることができましたことをうれしく思っております。

また、就職希望の生徒も、厳しい求人情報の中にあつて、着実な採用結果を得ることができました。旭高校が、明日の二十一世紀に

向けて、ますます充実発展していくことを希望しながら、教職員とともに生徒たちの豊かな人間形成と努力の向上のために頑張つてまいりたいと思ひます。どうか、今後とも同窓会の皆さまにおかれましては、母校に対する一層のご支援をお願いいたします。

# “旭”はいつも心の中に

山田 耕作



すとともに、ご活躍とご多幸を祈念申しあげ、ご挨拶といたします。

しかなかつた私たちをじっくりとねかせてはぐくんできた“旭”という酒蔵が忘れがたくて、私たちはひととせにひとたびの逢瀬を重ねています。

美酒をくみかわしました。梅の家」にちなんで、「梅の宿」「梅錦」の大吟醸を味わつた顔がこの顔です。

今日、集まれなかつた方を含め、オールドの私たちは、みんなそれぞれに個性を開花させようという酒になつています。まだ、無味無臭にはなつていません。

とまあこんな戯れ文を書かせてもらつて恐れ入つていますが、まじめな顔つきをしていえば、今、私は新設高校（2年目）に勤めています。新設4年目の“旭”に赴任してから二十一年間を過ごしたわけですから、一つの学校が成人に達する過程をつぶさに経験することができました。

この経験は今の私にとつてはとても貴重な宝です。しかも、失敗の経験ほど貴重に思われるのですから本当に不思議でなりません。いろんなことのあつた先輩、ご同輩、そして後輩、この人たちがすべてに加えて教え子が私の教師になつてくれたのです。

私のご存知あげていない現在の“旭”の先生たちの努力が報われることを願つてやみません。

オールドの皆さん、また、来年も元氣な顔で集まりましょう。同窓生の皆さんもお元氣で。

四月二十六日、道明寺在の「梅の家」に集まつた私たちは、「旭」でかもしられたオールドです。ひねた顔をみてください。味ののつた表情をみてください。ニューで、

まだ、ひねず味ものらなかつた私たちが知らない教え子には申し訳ないと思うくらい、私たちがうま酒になつていきます。さまざまの未来を秘めながら荒ばしつた新酒で

# 叙勲の栄に浴して

元・教頭  
坂本正一



勲章伝達式当日 宿舎で  
S62. 5. 14

この春の叙勲に際し、凶らずも勲四等旭日小綬章、受章の栄に浴しました。

凶らずもと申しますのも、文字通り思いがけなくの事でありまして、身に余る光栄と感激し、教育で生きて来て、評価を賜わった喜びをしみじみ噛みしめております。これもひとえに先輩諸先生の暖かい御指導を受け、同窓会各位の御厚情に支えられ、同窓会諸兄からは口幅つたい申し分乍ら、負うた子に教えられての賜物であります。私は生来孤独な性格だと思っております。三才で生母と死別、爾後、後添を貰わず育て上げて呉れた厳格な父の性格に似ているのかも知れませんが。その父も今年で三十三回忌に当ります。五月二十四日に在阪の親戚をお招きし法要を営ませて貰ったわけですが、仏壇

曜日だけは混む様だし休みにし、開館時刻の前にならぶ要領も覚え。窓際の良い席が占められるからであります。

この約六週間の夏休の自学自習は効果あったと思っております。

受験参考書は一科目一冊主義、それを反覆、理解する。今でも矢張り考え方は変わらないと思っております。

二学期にはいった。最終の仕上げだが、文科系教科が弱い。今更だが理数で頑張るしか方法がない。案じた様に英作文で引かかった。曰く「東京高等師範学校は明治五年の創立で、東京市小石川区にあり官立の学校である」と。

師範を英語でどう云うのか判らない。単語集にも無かつたし、最後はTEACHER—MAKING、官立はPUBLICと英国の公立を思い出して済ませた。入学後、師範出身の人からNORMALと教わった。鮮かに足許をすくわれた。官立は今日国立の意味だからGOVERNMENTでしよう。

一・二年生は全寮生方式で別に希望も出さなかつたら音楽部の部屋に入れられた。バイオリンの練習には、静かな男には苦痛だった。鋸の目立にも似て堪えられなかつた。夏休みに中学の恩師に相談した処、保証人の倉林先生にお願いしておくから先生とよく相談したらとの事である。早速夏休みも終ろうとする頃、上京して伺った。先生からは「思想問題もある

ので運動部の部屋に代えて貰え」との御指導を戴いた。昭和初期はこの問題が学生運動には入り込もうとしている時でもあった。それで二学期からは球捨い位は出来ると思つて野球部室に引越した。

気分は一転した。中学まで運動部に関係した事も無かつただけに体にはよかつた。都会育ちの脆弱さも寄宿舎の食事美味しく食べられたし我乍らスポーツの汗の喜びを味わう事が出来た。野球部では下手乍ら卒業まで所属し、最終学年では2名の同級生で私がキャプテン、もう一人はマネージャーというコンビで勤めさせて貰つた。

マネージャーの人は冬スキーで遭難されて淋しかったが、今日私が大病もせず生を長らえた一つは若い時のスポーツのお蔭だと思つています。

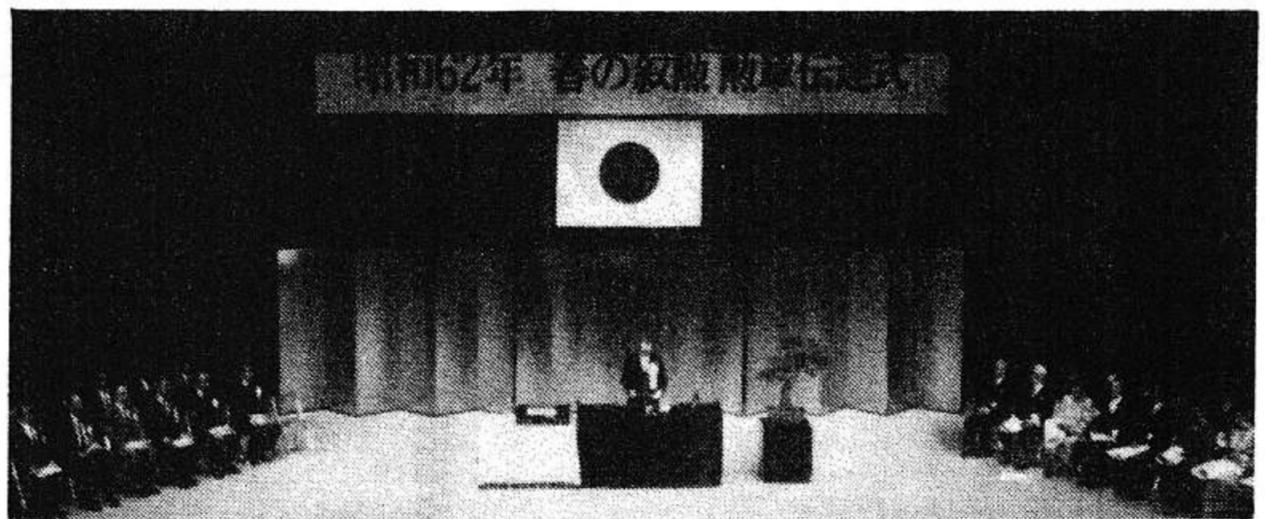
(今なお筑波大野球部後援会のメンバーです)

## 東京旭窓会

前・筑波大学教授  
沢田和佐

昭和六十年七月十三日(土)銀座アスター紫苑で、旭高校第一期卒業生のうち東京在住者による旭窓会(第二回目)が催された。あたかも小生が母校筑波大学を定年退職し、四十三年にわたる教職生活に一応のピリオッドを打った四ヶ月後であった。

三年前、稲岡さん、福田さん(旧姓宮林)の呼びかけで、林君が幹事を引きうけ、旭高校開校三十周年を祝つて、第一回目の会合を赤坂の「明石」で開き、久し振りに東京在住者が顔を合わせた時、毎年会合を開くように約束したのであった。しかし、なかなか思う



にまかせず、延び延びになってい  
た。昭和五十七年は、七年間の文  
部省視学官、主任視学官の職を終  
えた年でもあった。

今回は、稲岡耕二東大教授が、  
旧師の一人として出席してくれた。  
三十年振りに旧交を暖めることが  
出来たのは大きな喜びであった。  
彼は、東大大学院(旧制)の院生  
として万葉集の研究に便宜を得る



ため、昭和二十八年に赴任、二年  
間を一期生の指導に懸命に努力さ  
れ、一期生の卒業と同時に風の如  
く去ってしまった。

幹事をつとめてくれた福田敏男  
君は、既に高校生の二人のお嬢さ  
んの父親であり、頭の毛が薄くな  
ってきている。頭の話と言えば稲  
岡教授は、旭高時代はベートーベ  
ンと言うニクネームがつけられ

た程、ふさふさとした頭髪の持主  
であったが、今は小生より十才は  
若いと思うが、並んでいると、ど  
ちらが先輩か良く分らない程であ  
る。

福田幸子さんは、旭高生時代「  
ミス四十八」(旭高校は当初四十八  
高校と言った)と言われた程の深  
窓の麗人であった。美人薄命を思  
わせるスリムな、竹久夢二好みの  
佳人であり男子生徒のほのかなあ  
こがれの的でもあった。が、今は  
貫禄十分な日本の母に成長した。

この日の出席者はほかに、岸川、  
井村、生田君の計八人であった。  
少人数ではあるが、思い出話に時  
のたつのを忘れるほどで、東京在  
住者はまだ二・三名いるようだし、  
大阪居住者の中に社用などで上京  
する人も多いようなので、次回に  
は、もう少し大世帯で開きたいと  
思っている。

小生の人生六十三年、その中の  
教職に関係した四十三年間のいず

# 旭で三十二年

長瀬 静子

私が旭高校三十二年の教職を退  
いたのは昭和五十九年でありまし  
た。現在は奈良県桜井市桜井女子  
短期大学で教鞭をとっております  
が、何としても旭高校での教職生  
活は私の人生の大半を占めるもの  
でありました。したがって、忘れ  
ようとして忘れられず何かにつけ

れの場合にも、全力投球してきた  
つもりではあるが、特に旭高校で  
の生活は印象が強い。城東工業に  
間借りしていた開校時の一年間、  
高殿小での半年、一期生と共にジ  
プシーの如く定住の地を持たず、  
一クラス六十三名、多い時は七十  
名を越える過密状態の中で汗を流  
した。男はめつたに涙を見せるも  
のではないと言われるが、だらし  
なく涙を流した事が、私にも二回  
ある。一期生の卒業式で流した嬉  
し涙と、同年に亡くなった親爺の  
葬式の時の悲しみの涙である。と  
もかく一期生は無事卒業させたが、  
四期生には済まないことをした。  
二年の終り十二月に入院し、二年  
間の療養生活を経て復職した時は、  
もう卒業した後であった。しかも  
まもなく学校は勤評騒動に巻き込  
まれ、旭高校に関する私の思い出  
もそこでプツリ切れている。

てその思い出に叱咤され、励まし  
れながら余生をできるだけ有意義  
に健康的に生きようと願っている  
しだいでありませう。

私はいま、旭高校音楽部の合宿  
にOB顧問として参加し、久し振  
りに現役のリズム指導に汗をかい  
ています。当地は伊賀上野の山間

に在る新大佛寺で、田園情緒豊か  
な、まことに生徒達の研修には申  
し分のない環境であります。この  
地の人達は旭の生徒のことを真に  
高校生らしい高校生であると評価  
し、大山田村教育委員会としても、  
旭高校ならばという折紙つきで施  
設(小学校)の使用を許可しても  
らっております。

いまの世は、とかく自己中心的  
にふるまう者が多く、他への心配  
りの少ないのが常識となり何とも  
心淋しいかぎりであります。

短大での教授も学生は一般に自  
己主張が強くその反面責任を果た  
すことに億劫がり、友人関係も限  
られたものに執着しがちで挨拶も  
できない学生の対応に悩まされま  
した。が、負けておられないのが  
私の性分で「学生に希むことをま  
ず自分でやってみよう」をモット

に頑張ってみました。誠意は通  
じました。少しづつではありまし  
たが、人間関係が和らぎ、挨拶を  
するのにも抵抗がなくなり、教授  
するのが楽しくなりました。

これが真の日本人の心というも  
のではないのでしょうか。日本の古  
き良き伝統が何か得て？の知れな  
いものに拒絶され、その継承のま  
まならない現在、やはり次代を背  
負う青少年に関わる父母や教師が  
真の日本人の心に目覚め、情緒豊  
かに、もののあわれに感動を覚え  
思いやりと常に意欲に満ちた生活  
を求めてゆきたいと思えます。

久し振りに旭高校音楽部の合宿  
に参加し、一層若返ったつもりで  
魂を燃やしながら一筆したためま  
した。卒業生の皆様のご健勝を祈  
り上げております。

# お元気ですか

三期生

松村 富久枝(旧姓 増家)

皆さんこんにちは、ご無沙汰し  
ています。お元気でお過ごしでしょ  
うか……。一、二三期生の方は覚  
えて下さっているでしょうか……。  
小柄で活発でピチピチギヤルだつ  
た女子の応援団長を……。早いも  
ので旭を後にして三十年……。親  
元からなんの苦もなく通っていた

高校時代と比べ、ひとり立ちして  
からのなんと苦勞の多かつたこと  
……。何度もくじけそうになりなが  
らもどうにか落ち着き、今は大学  
四回生の息子と高三の娘を持つ母  
親になりました。こんな暮らしに  
くいぎすぎすした世の中になりま  
すとよけいに高校時代が懐しく思



# 演劇鑑賞

## 「終わりに見た街」

二四期・母校国語科

太田 たみね(旧姓 宝木)

母校では毎年全生徒対象の教養講座を校外で、実施しています。本年度は、去る六月二十五日、森ノ宮ピロティホールにおいて劇団コーロの皆さんによる演劇「終わりに見た街」を鑑賞しました。この劇はシナリオライター山田太一氏が自己の戦争体験をふまえて書いた小説「終わりに見た街」を舞台化したものです。

ドラマは現代のある平凡な家庭がある朝突然タイムスリップして昭和十九年にさかのぼるところから始まります。主人公たちは、現代の人間なのにまわりの社会の方が、ひと晩で戦争中に逆戻りしてしまうのです。そこでおこる様々な混乱。やがて迎えた昭和二十年の正月、主人公の男は現代からやって来てこの戦争の結果を知っている者として「何か自分にできることはないか」と考えた末、三月十四日の大阪大空襲の事実を世間に知らせ、少しでも多くの人の命を救おうと、大阪の街へ出かけて行きます。(原作とは異なり今回の上演では、物語の舞台は大阪になっっています。)しかし、人々にいくら「三月十四日に大きな空襲

がある。」というのを、訴えても逆に「スパイ」「非国民」とのしられる有様です。そして、やって来た三月十四日。焼け残るはずの安全な場所に非難していた主人公達の上にも爆弾が降ってきました。実は主人公達は今度は昭和十九年の過去から現代を通り過ぎて近未来へタイムスリップしていたのです。そこでは核爆弾が落ち大阪の街も、もうすっかりなくなっていたというのです。

この衝撃的な結末は重く胸に残り、現代の平和な日常がいかにもろく危ういものであるかを考えずには、おられませんでした。コーロの皆さんの熱演によって非常に見ごたえのある感動的な舞台となり、幕が下りて後もしばらく席を立てませんでした。生徒たちもそれぞれの感慨を抱いて帰路について、現代についてもう一度見つめ直すきっかけにしたいと思えます。



# 看護学校へ行って

三二期

上浦 明子

看護学校に行つて、一年たちました。高校時代、簡単に看護婦になりたいと思つていましたが、今、看護婦という職業が、とても難しいと痛感しています。でもそれだけに、すばらしくてやりがいがある職業だと思えます。旭高校で学んだことを生かして

# 母校・旭高校に思う

同窓会副会長 四期生

上浦 康平

私も、高校卒業後、三十年目となる。その間社会の中で生きてわけである。昭和の日本経済は非常にけい変化をしながら急成長し、現在では世界の中でトップクラスとしてその立場を維持しているのである。

この間、社会人として生きた三十年をふりかえつて、自分をみつめた時、平凡ではあるが家族共々健康で沢山の友人達にかこまれている生活に満足しているところである。

私のような平凡な人間が今日、楽しく毎日を送れる原動力はと考へる時、高校時代の生活であるとつかしく思う。昭和三十一年時代の旭高校は、第四十八高等学校

これからもがんばりたいと思えますので旭高校のみなさんも何か生きがいというものをもつけて、がんばってほしいと思えます。高校時代の学生生活は、本当に楽しいものだと思います。看護学校で苦しい時、又病院での実習の苦しい時、楽しかった高校時代を思うと気持ちも明るくなります。どうか、現役の皆様も存分に学生生活をエンジョイして下さい。後輩の皆様方とも逢える同窓会を楽しみにしています。

として二三年目であり、進学に運動に、先生、学生共々エネルギーに動いていた。私もバレー部で卒業式の前日まで練習をしていた。担任の坂口先生も進学のため心配の余り色々注意してくださったが、一方では暖かく見守って下さった。

一つのこと熱中し、規律を守り、チームワークを取りながらチームのために全力を尽した時の情熱が、社会の荒波に負けず自分の生活を維持出来ている原動力だと信じている。沢山の友人もほとんどが、小、中、高の先輩・同窓生・後輩であり、学生時代の雰囲気がいままで続けることが出来る喜びは、やはり学生時代の楽しい

生活がもとであると思う。旭高校も二十五周年をむかえる伝統校となってきた。ここで、学校の特色は……、と

考えた時、自信をもって答えることが出来ないのではないかと思う。今後は、クラブに勉学に自分から進んで取りくんていく。自主性をもった学生が旭高校には多いと言われる伝統校目差してがんばってもらいたい。社会からはぐれな



# 寄附金

# 御礼とお願ひ

同窓会長 西中紀博

六十年八月より本年五月末日までの寄附金の合計が激減しました。卒業時の入会金が終身会費でもありますが、卒業生の増加・各種行事への賛助他、出費の重なる事が多くなつて参りました。

その点を皆様、どうかご賢察いただきたくお願い申し上げます。これからも継続して参りたいと思ひますので、今後共高一層のご協力を賜われますよう重ねてお願い申し上げます。寄附金のご送金は同封の郵便振替払込書をご利用いただければ幸甚に存じます。

# 天台座主 山田恵諦大僧正揮毫の

## 扁額寄贈にあたって(下)

同窓会長 西中紀博



ならば、能く行い能く言うというの、伝教大師の人材養成の基本でありまして、能く行い能く言う人をつくるのが教育の本義ということ。それで、もしどうしてもこのとおり出来ない場合は、能く行うことでも構わないし、また、能く言うことでも構わないが、やはり人を良く導くには、能く行い能く言う人が、いちばん尊いのであって、この様な人を世の中に充満させさえすれば、いちばん平和な良き環境の社会がつくれるということ。だから、こういう人をつくることを以て、教育の方針、基本とするということが伝教大師の人づくりの眼目であります。そうして、即ちこの様に育った人が国の宝となるというわけです。

伝教大師が比叡山で、学生を十二年間修業させて、最後の試験に三つの条件を示された。その三つの条件とは

- ① 能く行い能く言う人
  - ② 行うことが出来ても言うことが出来ない人
  - ③ 言うことが出来ても行うことが出来ない人
- この三者は及第生で、  
○言うことも出来なければ行うことも出来ない者

この者は落第生だ、落第生だということだけではなしに、国の賊だと書かれております。(山家学生式) 不言実行ということもありませんが、やはり自分の意思が発表出来ない人では駄目であるし、また発表しても、それを実行できない人は、他人から蔑まれる。発表すると同時に、それを実行していくという人でないと人様が納得する先頭に立つ指揮者にはなりにくい。能行、能言、この二つを兼ね備えた人物をつくること、いちばん有り難いということ。そうして、この『能行能言』というのは、伝教大師の教育の基本であって、しかも純粹な人材養成の道でありますので、皆さんの母校、高等学校に置かれるには最も適切かと考え認めたのです。」と申されました。

それで、私共同窓会といたしまして、後輩諸君が旭で学ばれるにつけて、この扁額に書かれている『能行能言』の意味するところをよく体して、立派に業を修められ、世の為、人の為に大いに気を吐かれたことを念願して、扁額寄贈をいたしましたわけです。(完)

(追記) あとになりましたが、扁額寄贈に快く賛同いただきました同窓生諸氏に、心より厚く御礼申し上げます。

また、この扁額を校長室に掲げ、そのことを快くお許しくださいました学校当局に厚く感謝申し上げます。

どうぞ皆様、総会当日には校長室にお入り頂き、是非実物を御覧下されば幸甚です。

### 昭和60・61年度 決算書

船場太郎 さん  
(四期・松原昌平)  
初のリサイタル  
「あじさいの詩」  
大成功!



(1986.11/1.2.3)  
○近鉄小劇場

# 母 校 人 事

昭和六十一年度

○転出

松川 義明(校長) 清水谷 武笠 裕司(国語) 大冠

小和田 稔(地学) 静岡県

栗林 純子(体育) 岩手県

村上 勉(社会) 豊中

鋤柄 正昭(数学) 高槻南

○転入

田中 精之助(校長) 門真西

内田 勝久(国語) 東住吉工

太田 たみね(国語) 柏原東

藤岡 泰成(社会) 松原

進矢 正之(社会) 箕面東

山室 昭宏(数学) 吹田東

原 良朗(地学) 西寝屋川

三上 進(地学) 北淀

岡本 則子(体育) 西成

○退職

吉田 孝子(英語) 新採用

昭和六十二年度

○転出

三義 善英(社会) 港

萩田 竜三(数学) 寝屋川

辻村 明郎(数学) 高津(定)

○転入

森川 良喜(社会) 茨田

寺前 仁司(数学) 門真西

柄谷 健一(数学) 吹田東

湯浅 勝行(化学) 門真南

堀 有見子(書道) 南寝屋川

福山 千津子(英語) 高槻九中

古田 由太郎(英語) 藤井寺

中谷 文(事務主査) 桜塚

○退職

板谷 敏枝(技能員)

大谷 正典(数学、常勤講師)

靈田 直敏(数学)

富本 信彦(化学)

北田 昭文(英語)

藤原 ハマ子(事務主査)

吉村 喜美江(技師)



## クラブ・同好会 加入状況

○印は同好会

### 文化系

部名	新	生	物	化	E	吹	合	写
名	聞	物	理	学	S	奏	唱	真
男	8	4			0	15	5	5
女	9	6			5	46	15	1
計	17	10			5	61	20	6

### 体育系



部名	書	茶	放	箏	美	古	天	演	将
道	道	送	曲	術	典	文	劇	棋	棋
男	2	0	4	0	12	2	2	3	
女	12	29	1	20	8	6	16	19	
計	14	29	5	20	20	8	18	22	

部名	ス	男	ソ	野	サ	水	剣	陸	テ	卓	器	柔	男	女	山
キ	子	フト	子	ッ	泳	道	上	ニス	ニス	械	道	子	子	岳	
男	6	28		13	54	9	19	38	29	12	9	15	22	0	
女	11	5	34	27	4	9	19	27	2	11	26	9	8	0	
計	17	33	34	27	17	18	38	65	31	23	35	24	30	0	

## 進路の状況

## 昭和六十一年度 進学概要

《国立》

○合格者数 現役 15

浪人 48

合計 63

(Ⅱ部を含む)

○主な合格校

北海道大、東北大、大阪大、大阪教育大、大阪市大、大阪府大、大阪外大、神戸大、その他

《私立》

○主な合格大学(現・浪含む)

関西大学93、近畿大学57、大阪工業大43、立命館38、龍谷大学25、同志社22、関西学院9、その他多数

○主な合格短大(現・浪含む)

関西外語短大14、金蘭短大14、大阪キリスト教短大10、常盤会短大9、武庫川女子短大8、その他多数

## 来年の総会・懇親会

○日時 昭和六十三年 十月二十三日(日)

○総会 午後一時・母校

○懇親会 時・場所未定

○会費 未定(当日徴収)

○来年は、旭窓会報の発行の無い年(発行は二年に一回)です。で、読売・朝日・毎日・産経の四大紙に予告記事を掲載いたします。

## 伝言板

### 十八期三年五組松村組

### クラス会のお知らせ

○日時 九月十三日(日)

昼二時

○集合場所 曾根崎警察地下一階

○詳しくは 米田まで

☎九二一―四九〇六

